

2011年JVCA投資動向調査結果概要

集計対象

JVCA 会員のうち、36 社の協力（アンケート回答社数は前回は 35 社）により、2010 年 1 月～12 月の個別投資先企業について調査を行いました。この調査は投資先企業の重複を一切排除した形で集計を行っており、投資先 356 社の属性等について日米及び前年との比較を中心に分析を行ったものです。なお四半期ベースの 2010 年度の年間累計は 2 月 24 日に既に公表しておりますのでこちらをご参照下さい。

調査結果概要

1．投資動向全般

2010 年の海外への投資を含む投資金額は前年比 17%減少し約 181 億円と 2006 年来 4 年連続で減少しました。うち日本国内への投資は、前年比 23%減少し 151 億円となり、海外への投資は前年比 26%の増加して 30 億円となっています。

1 社当り投資金額は 51 百万円で、米国の 695 百万円と比べると依然として従来同様 10 分の 1 以下水準にあります。日本の 1 社当り投資金額が少額である主な理由としては大きく 2 つの理由があげられます。

1 つは日本と米国の絶対的資金量（VC ファンド総額）の違い。米国は NVCA の調査によると 1,183 本のファンドで約 15 兆円、日本は VEC の 2010 年の調査では 435 本の 1.7 兆円と大きな格差があります。ファンド本数で米国の 2/5 弱で更に 1 本当りの資金量が日本は約 40 億円と米国の 130 億円に比べ 1/3 以下の規模と小粒ぶりが際立っています。

2 つ目は VC が投資を行う投資産業セクターの違いがあげられます。日本は小売、サービス業が多く、米国ではより資金が必要な IT、バイオ関連やエネルギーなどテクノロジー系が多いためです。

年間投資社数は前年 354 社とほぼ同水準の 356 社でした。うち、海外を除く日本国内の投資社数は前年比とほぼ同じの 310 社でした。

2010 年の総投資件数は 437 件で、重複を排除した名寄せ後の投資社数が 356 社であることから、投資先 1 社につき平均約 1.2 社の VC が投資している状況です。

2010 年 12 月時点の投資残高は、前年比 19%減の 2,654 億円となりました。2010 年に新しく組成したファンドは本数で前年比 2.4 倍の 12 本で金額は前年比約 10 倍の 354 億円。2010 年 12 月末時点で運用するファンドは、268 本で 7,272 億円。20 年のクリーンテック関連投資は 19 社で 13 億円でした。

2．セクター別投資動向（注.構成比は金額ベース）

日本の上位セクターは小売・サービス関連（Retailing and Media、Business /Financial）が26%で1位、エネルギー関連（Industrial/Energy）が25%、で2位、IT関連（Computer Software、Communications、Computer Hardware）が22%で3位でした。前年と比較するとエネルギー関連（Industrial/Energy）が19% 25%と増加し、バイオ関連（Biotechnology、Healthcare Related）が22% 19%と減少しています。

米国はIT関連（Computer Software、Communications、Computer Hardware）35%、バイオ関連（Biotechnology、Healthcare Related）29%とこの2つのセクターの投資比率が引続き高くなっています。

3．地域別投資動向

金額ベースでの関東地区の投資（東京を含む）が58%で半分強を占めて、相変わらず関東地区への集中投資に変化はありません。

海外の投資比率は17%と前年比6%増え、中国を中心としたアジア投資が着実に増えてきました。この傾向は今後も続いていくと予想しています。

4．ステージ別投資動向

昨年の調査で始めてExpansion、Laterステージの投資比率が2/3を超えましたが今年も63%と高い比率で推移しました。これは最近のIPO市場の低迷から投資段階でよりIPO確度の高い案件＝Expansion、Laterステージへの投資シフトが高まったことや新たなファンドが設立できずに残存期間が短いファンドしか使えないことに起因しExpansion、Laterステージにシフトせざる得なかったためです。

VCの資金調達が悪戦し新たなファンドが立上げられない状況が今後も続けば、残り資金と時間が限られるファンドの効率的運用の観点から、よりリスクの高いSeed/Start-Up、Earlyステージの投資が回避されるため、Expansion、Laterステージへの投資シフト傾向は続いてくものと考えています。

5．ラウンド別投資動向

投資ラウンド別の比率は、前年比投資件数ベースでファースト投資が32% 34%、フォロー投資が68% 66%とほぼ同水準で推移しました。

日本と米国を比較した場合、投資件数ベースではほとんど同じ構成比でファースト35%、フォロー65%でしたが、投資金額ベースでは日本が件数ベースとほぼ同じなのに対して、米国はファースト20%、フォロー80%とフォローの割合が大きくなっています。米国ではファーストラウンドで少額を投資し、フォローラウンドで大きく投資する投資パターンが認められます。

6 . 投資形態別（種類株式の活用）

種類株式の金額ベースでのこの5年間の割合推移は2006年8% 2007年20% 2008年29% 2009年30% 2010年32%と着実に増加しています。希薄化防止や残余財産分配を考慮した多様な種類株が今後も増加していくものと考えています。

種類株式が利用されている地域は関東（東京含む）と海外で81%と大半を占め、その他の地域であまり利用されていません。

7 . VC投資を受けている2009年IPO企業のセクター別分布状況

総IPO社数に占めるVC投資を受けている企業の比率では、日本が22社中12社（55%）に対して米国が104社中72社（69%）と、米国が上回っています。

総IPO社数の前年比は、日本が+2社（前年19社）に対して米国は+66社（前年38社）と米国の回復が顕著でした。

2011年の日本のIPO年間見込みは東日本大震災の影響もあり30社程度で急回復は見込めない状況であり、引続き国内IPO以外のExitを模索する動き（海外IPO、Trade Sales）が活発化していくものと予想しています。

以 上